

令和2年度第3回鎌倉市青少年問題協議会 議事概要

【日時】 令和3年3月2日（火）14時00分から15時30分

【場所】 鎌倉生涯学習センター3階 第5集会室、オンライン会議併用(Microsoft Teams 使用)

【出席者】 敬称略

(1) 委員 8人

(2) こどもみらい部

平井あかね（こどもみらい部長）

瀬谷公重（こどもみらい部次長兼青少年課長）

(3) 事務局 3人

芳賀弓子（青少年課課長補佐）、田中翔太（青少年課担当係長）、渡邊千晶（事務職員）

【資料】

1－(1) 子ども・若者育成プラン(案)

1－(2) 子ども・若者育成プラン(案)主な意見内容、意見に対する市の考え方

【概要】

事務局から、子ども・若者育成プランに関する、庁内意見募集及びパブリックコメントについての意見結果について第2回からの変更点等の説明を行った。

各委員からのご意見、ご提案は次のとおり。

【質疑応答】

加藤会長 : 1章・2章について、青少年課の説明では、中学生・高校生を中心に今回のプランを勧め、他の年齢については他課が行っているとあったが、意見があれば発言をお願いしたい。

中野委員 : 全体的に言えることだが、もともと名称が「～プラン」であり、施策を実行する行政のプランであるからには、Aという事業については5年間で行い、Bという事業については新規事業であるから、3年あたりから始めるといった具体的な事業が出てくると思っていた。これはその原案なのかもしれないが、違和感を覚えた。プランという名称で年度期間まで記載しているのに、最終的に何の事業をやろうとしているのか見えてこない。根本的に疑問に感じた。2ページ目を見て、他の0歳から9歳は、「子ども・子育てきらきらプラン」、10歳から18歳は「鎌倉教育プラン」とあるが、これらも今回のプランのようにこのレベルでおさめているものなのか、個別具体的な事業はプランの中に入らないのか疑問に思う。特に、資料2の青少年を取り巻く状況に関する、意見の3つ目に、「アンケート調査結果が相当なボリュームとなっており、…、第3章・第4章が埋没している」とあり、このように思う人がいるのも当然かと思う。プランと言う限りは、第3章・第4章に具体的な施策が出てきて、青少年課で行う事業だけではなく、他の課の事業も含めて全体を載せて、5年間でどのようにしていくということが出てくるとイメージしていた。そういう意味では、今ここにあ

るものが物足りないと感じた。もう少しその先が見てみたいと感じ、他のプランも同様な
か事務局に伺いたい。

芳賀補佐 : 第2回の青少年問題協議会では、第3章と第4章はそれほど肉付けがされていない状態だ
った。その部分に意見があったこともあり、今回、第3章と第4章については、大幅に変更
している。また、第3章資料の25ページの主要な取り組みの後ろに、関連部署の実施事
業が紐づけされる予定である。現在、庁内に青少年を取り巻く事業、もしくは青少年を対象
とした事業について照会をかけており、今回の協議会には示すことができなかったが、具体
的な取り組みが掲載される予定である。

齋藤委員 : 支援施策の充実を図るといふ、難しさもあり、とても大切な部分であると感じている。幅を
広げて、いろんな方の青年期まで含めて、対応していくことは大事だと感じる。

加藤会長 : 乳幼児から青年期まではつながっているため、つながりをしっかりしなければいけないと
思う。ここでは、「青少年をどこに」ということに絞り、中高生を中心とすることで確認を
させていただき、この後の基本的なところに行ってみたいと思う。第3章についてパブリ
ックコメントをいただいている部分もあるので、事務局から説明をお願いしたい。

芳賀補佐 : 資料1の25ページ、1の理念については、平成23年のプランを踏襲している。2の目標
と3の主要な取り組みについて、今回網掛部分を修正している。

令和2年度から、鎌倉市の第4期基本計画ではSDGS、共生や共想の視点にたっているこ
とを踏まえた見直しを行っている。目標1「豊かな人間性を育てる」こと、目標2「社会性
や主体性を育てる」、続いて26ページの、目標3「鎌倉を愛する心を育てる」、目標4「大
人も成長する」、目標5「相談でき、支援を受けられ、安全安心に暮らせるまちにしよう」
というそれぞれの視点から、3の主要な取り組みを整理した。主要な取り組みについては、
庁内関連各課の取組を踏まえて、整理するとともに、庁内意見やパブリックコメントを反映
している。前回のプランでは、目標1は「感動体験を通じて豊かな人間性を育てよう」とし
ていたが、青少年がジェンダーや多様性を理解し、差別のない共生社会の一員として成長す
ることを期待することから、今回、「共生社会の一員となる豊かな人間性を育てよう」と変
更している。

資料2について、こちらは庁内とパブリックコメントの意見を掲載している。3章について
は、アンケート結果から現状で「スマートフォンなどの普及により自宅にいながらゲームや
音楽を気軽に楽しめたり、広く多様な情報を得られることで」とは、どのアンケート結果か
らの分析なのかという質問があり、アンケートの結果からではないため表現を修正してい
る。また、アンケート結果から、「進学や就職といった将来に対する不安や困りごとが高い
中、それに対する施策が不十分」という意見があり、これは、第2回の協議会の後に指摘い
ただいた「3章について中身がないということ」に係り、放課後かまくらっ子などの社会参
画の機会を提供し、キャリア教育につなげていく旨を、第3章計画の基本的な考え方及び3
の主要な取り組みにおいて記載を追記している。続いて、「1理念、2目標はアンケート結
果とどう結びついているのか」という質問については、平成23年の作成当時に時間をかけ
て作られていることから既に見直しすることは難しいと考えている。今後の見直しの中
で行っていく予定。また、「食育や青少年向けのスポーツイベントなど、他課が実施している

施策も青少年の取組ではないか」については、先ほどから出ている部分であり、現在、関係事業として各課に照会をかけているところであり、内容についてはこれから取り組んでいくことになる。

- 加藤会長 : 目標が1～5とあり、後ろに細かく枝分けした内容を記載されているため、意見があれば。
- 石井委員 : 第3章の計画の目標5まで読んだ時、大変充実したと感じている。特に目標5が前回示された修正版の案よりも充実して良かったと感じている。
- 加藤会長 : 委員の検討、意見もあり、内容がふくらんできたと思う。
- 長谷川委員 : 目標2の地域の活動に関する情報提供ということで、ここにも具体的な事業が紐づいていくと思うが、中高生、大学生にしっかり施策、事業を実施していくことが伝わるのが大切だと思う。実施しても知られていない、参加しようとしても窓口がわからない、ということにならないようになるべく広く、多様な人たちに関わって、参加してもらえ、そういう取組になると良いのかと思う。
- 加藤会長 : 簡単に目標1から5まで見ていく。
- 1「共生社会の一員となる、豊かな人間性を育てよう」については、主要な取り組みが4つあり、自然と触れ合う、体験活動の2点は前回からあり、3つ目の他人を思いやる大切さを学ぶ機会、4つ目のジェンダーや多様性を理解して差別のない共生社会の2点は今回記載した。
- 2「人と人とのつながりの中で、社会の担い手になるための社会性と主体性を育てよう」についても、4つの主要な取り組みがあり、1つ目に地域との連携による多世代交流活動を大事にしようということで、特に「多世代交流」を入れたことで世代をつないでいる。2つ目の地域の活動に関する情報提供をするということ、様々な事業を実施していることをお互いが情報交流しあう、伝えていくことがわかる。3つ目の生きる力や社会とのつながりを育むための普及啓発について、生きる力、社会とのつながりをどのように作っていくか、具体的な実践がこの後必要になっていく。4つ目のキャリア教育の機会の提供についても触れており、中身としては充実した内容となっている。
- 長谷川委員 : 補足だが、コーディネーターから放課後かまくらっ子でイベントをやってほしいと声がかかったことがある。企画をしたものの、新型コロナの関係で実施はできなかった。自分のネットワークで数名大人のサポーターをつけることはできたが、本当はそこに地域の学生や高校生が繋がるルート、パイプがあれば声をかけて一緒に活動できれば、若い人に伝えられることや、一緒に小学生に携わる機会になりうるのかと思う。
- 加藤会長 : 放課後かまくらっ子が16校全校でスタートし、地域の人の方々も参加している。大学生、鎌倉女子大学が参加して子どもたちとの交流が始まっている。文部大臣賞をとったということで、国でも高い評価、交流、世代交流をやっているということで認められた。その流れでふくらませていくと良い。目標3「鎌倉の自然、歴史、文化、関わりながら鎌倉を愛する心を育てよう」について、特に修正はないが、鎌倉の文化、鎌倉が一つの共通のふるさとであり、文化や歴史をつないでいこうということで、鎌倉の特徴になる。これに加えることはないか。
- 若木委員 : 鎌倉は歴史文化はもちろんだが、特徴として海がある。文言、表現の仕方はともかく自然遣

産を有効に活用出来るようになるという。

加藤会長 : 歴史文化について、山や神社はあるが、確かに海は鎌倉の特徴である。詳細は事務局で検討してもらいたい。目標4「子どもと共に大人も成長しよう」について、意見があれば。子どもの成長はあるが、大人も成長しようというのはなかなか出すところがない。

長谷川委員 : PTA の会長をやっており、保護者に対しては、子どもと一緒に大人も成長していくことは発信している。まさにここの部分とリンクしていけたら良いと思う。

加藤会長 : 目標5「気軽に相談でき、支援を受けられ、安全安心に暮らせるまちにしよう」について、非常に大事なことである。主要な取り組みの、「関係機関との連携強化によるいじめ、ひきこもり等の未然防止の推進」について、青少年課だけでの実施は難しいが、他の関係機関、部局と連携をとろうということになるが、もう少しふくらましたらよいか。「相談支援に関する情報提供の充実」、「薬物乱用や特殊詐欺など青少年の安全を守る活動の推進」、「命の大切さや心の健康づくりの普及啓発」についても、特に新型コロナのこともあり全国的に自殺が増えているため、これらについても大事である。

長谷川委員 : 全体的なことだが、先ほど具体的事業がぶらさがってくることはうかがった。5年間と区切っているが、5年間で何をするのか、個々の事業についてその目標や数値など具体的に入れた方が、読む市民もわかりやすくなる。数値的な指標があれば、落とし込む時にいれてもらいたい。もう一つ、対象が19歳から30歳とあるが、学生以外はほとんど仕事をしている。このページを見た時に、家庭、学校、地域という言葉や青少年育成団体とあるが、鎌倉には民間企業、自営業もあり、皆さん勤務時間が長く、職場にいる時間が長い。この中に民間の企業、民間の団体と連携なり協調して何かやっという話が、目標2の地域と連携のところになるのか。民間のことがどこにも出てこないのが寂しいと感じる。役所と学校と地域しかないため、全体的に民間の力も入れての意識、目標があって良いのでは。

萩谷委員 : とても充実していると思った。それぞれの取組がこの後各課の方で示されるということで楽しみにしている。

加藤会長 : 高校生が就職したあとも、地域の活動、プランの中に一緒に参加できることがあると良い。勤労青年が職場の中でどのような生き方が出来るか、それを支えられるかが入ると良い。

中野委員 : 目標の2に入れてはどうか。現在、地域奉獻活動という民間活動を実施している。地域奉獻活動をしている民間企業との連携、共同、言葉はともかくとしてそのようなことを入れたらどうか。

加藤会長 : 確かに企業が地域貢献をするというのは大きな流れになっている。キャリアとつなげると内容として膨らむ。

石井委員 : 一般企業、民間企業で、地域活動が導入されているのは気が付かなかった。今後大事なところだと思った。

加藤会長 : 3章の基本的な考え方、全体の目標を見直してみながら、内容について意見があれば。

中野委員 : 目標5に「安全安心に暮らせるまちにしよう」とある。これに対する主要な取り組みは青少年の安全を守る活動とあるので、同じように安全安心を守る活動というようにしたらどうか。上から3段目の内容に「青少年の安全を守る継続、推進」という文言を入れたらどうか。

加藤会長 : 守るということを入れたうえでの文章を工夫して両方入ると良い。

長谷川委員：目標5の主要な取り組みで、相談支援の情報提供の充実と書いてあるが、情報提供に限った、相談支援に関する充実でいいような、情報提供に限った意味合いはあるのか。相談支援に関する事業の充実は大事なことだと思う。相談委員を増やすことや、キャリアアップ等様々な方法が考えられるが、情報提供と区切ることに事務局で意味合いは何かあるのか。

芳賀補佐：青少年課の立場だけで考えてしまっている。青少年課では相談機能は持っていないため、その意味で情報提供という言葉を使用している。

加藤会長：相談支援に関する事業及び情報提供の充実と書いてもよい。事業が入った方が広がる。

石井委員：事業という言葉が入るのは良いと思う。教育センター関係も含まれるが、各学校で相談機能を非常に充実させているため、関連するので良い言葉だと思った。

加藤会長：続いて、第4章施策の方針についての協議に入る。

芳賀補佐：第4章施策の方針について、29ページの施策の展開は、中高校生が社会参画できる体制づくりや、放課後かまくらっ子のような場の提供について記載していたが、重複する点もあることから、表現を整理するとともに、ジェンダーや多様性への理解、自分や他人の命を大切にすることを加えた。30ページには重点事業として「放課後かまくらっ子推進事業」と「育成事業」を掲げている。重点事業1「放課後かまくらっ子推進事業」については、2つ目の項目に「多世代交流の場」という表現を加筆した。重点事業2については、青少年課が取り組んでいる「公共施設等を活用したフリースペースを増やす」こと、また、「巡回を通して気軽に声をかけることができる関係づくり」を加えるとともに、第3章の主要な取組に関連する内容を追記した。31ページの推進体制では、説明文に合わせ、模式図に教育委員会や学校等を加筆した。

次に、資料2の3章、4章の部分に対する意見について、前回、ひきこもりに対する記載がないという意見をいただいたが、ひきこもりに関しては福祉部門が所管することから重点課題としては位置付けていないものの、第3章の目標5で、ひきこもりや、困難な若者の部分について主な取り組みとしている。これに対し、「地域社会との関わりや、関わりに貢献することに重点を置いていることが、子ども・若者の取り扱いとして根本的に間違っているのでは。人間としてどうあるべきかを正しく考えることのできる環境と機会を提供する方策を」という意見をいただいた。当プランについては、地域に青少年の居場所や社会参画の機会をつくり、自立した大人に成長するための支援を目的としている。続いて「第4章施策の方針、青少年の心の育成を盛り込むこと。重点事業に育成事業に青少年の心の育成を目的とした講演会等を開催する」という意見に対しては、命の大切さや心の健康づくりを目標とした主要な取り組みに追加している。「中高生は塾等の放課後学習で自主的に過ごすと考えられるものと思っていたので、対象の若者が具体的に想像できない、対象がどんな若者か理解できるように広報してほしい」という意見に対しては、15歳から30歳までを対象としており、関係機関との連携を強化していくという回答で検討している。

加藤会長：第4章の内容について、全体的に意見があれば。

下山委員：30ページの「青少年の安全を守るため、薬物乱用や特殊詐欺等へ理解を広く啓発します」という部分に、携帯電話等はいれなくていいのか。全国で色々な事件が起きており、県の育成条例でも携帯電話を問題視している。その理解が親も子どもも深くないので色々な事件

が起こることがありうる。

長谷川委員：スマートフォンについて、PTA でも昨年スマホルールブックという冊子を作り、小・中学校に配った。非加入校でも Facebook から PDF をダウンロードできるような形にしている。新型コロナもあり、周知して浸透させていくには難しい一年だったが、ますますこういう状況になってきていて、ネットの問題は大切なポイントなのかと思っている。入れて頂けると良い。冊子も活用してもらえると良い。

加藤会長：このルールブック一般の方の父兄、母子にもみてもらいたいと思う。

萩谷委員：下山委員の話もあったように、我々も見えないところで起こっていることは、たくさんあると思う。生徒たちの方がスマートフォンやパソコンの扱いに慣れている場合もあり、心配な部分はある。

加藤会長：様々な事件も起きており、その中いじめも多発している。色々な機会を通じて子ども達とも話し合う必要がある。文章の中に入れるとすると、専門家の意見も聞きながらどうやって入れるかが重要である。

長谷川委員：30 ページの重点事業 2 に、「青少年が安全で安心して利用できるフリースペースを増設する」と追加されているが、背景にはどんなものがあつたのか知りたい。前回までの話し合いでは居場所は、箱ものよりソフト的なもの、人間関係、そちらの大切さが語られていたと思う。どのようなイメージでフリースペースは次につながっているのか。

芳賀補佐：今まで建物以外のところで居場所というものを求めていたが、建物としても生涯学習センター 1 階のエレベータの前に「わかたま」というスペースがある。生涯学習センターから一部場所をお借りして、青少年課で子どもたちに開放しているところである。コロナ禍で子どもたちが行くところに行けない、大学の勉強等をするにも場所がないということで、現在、広く利用して頂いている。この時間はまだ学生は来ていないが、夕方 17 時頃になると試験勉強のために「わかたま」を利用して頂いている。また、玉縄青少年会館では学習室がある。現在のところ、生涯学習センター及び青少年会館の 2 カ所のみだが、様々なところで、広くきちんとした場所というよりは少しずつ様々な所に公共施設を利用してフリースペースは確保していきたいと考えている。今回はこのような経緯で掲載している。

加藤会長：少しでも良いのでフリースペースとして活用してもらおう。そこに青少年がいると、来やすくなる。そこで色々な人間関係が生まれる。こういうことを拡大したい、そういう思いで書かれている。他に意見があれば。

中野委員：資料 2 の、ひきこもりは重点課題ではないのかの質問に対して、所管では位置付けていることだが、重点であることは間違いないと思うので重複してでも入れるべきだと思う。議会で議員から聞かれた時にこういう回答をするのか。重点課題には位置づけない、福祉部門が所管するからと回答してしまうのか。市民はこれを見て市政プランの全体が知りたいのだから、ひきこもりは所管が違うから入れてませんでは、市民は嬉しくないと思う。

加藤会長：実際には 30 ページの網掛の一番下、「不登校、ひきこもり等、困難をかいている青少年に居場所を提供している民間団体への支援を検討します」とあり、この文言を修正するか。

中野委員：ここもそうだが、他は「開催します」、「支援する」、「勧めます」、で終わっているが、こっただけ「検討します」となっている。

- 加藤会長 : 福祉部門では重点課題として実施しており、そこと協力して取り組んでいくという意味だと思う。あえて重点と書くかどうかは別として、これをしないわけではないが、行政としてどのようにするか。
- 芳賀補佐 : ひきこもりについては28年度には青少年の中に入っていた。資料1 ページ目の中でも支援体制の充実に関しては福祉部門で重点という形になっている。その部分について、青少年育成プランの中では、「青少年の居場所づくり」と「社会参画」という2本柱にする中で、ひきこもり等については福祉部門と連携して進めていくということで、重点項目までの位置づけという記載にはしていない。
- 加藤会長 : できれば検討していただきたいが、30 ページ一番下の部分、「団体への支援を検討します」、という言い方は相当引いていると感じる。「支援を検討します」、「支援します」くらい書いても良いと思う。
- 瀬谷次長 : 資料2 では重点課題としては「位置付けていない」と、切っているが、26 ページの目標5のところの一番上では、「ひきこもり等の未然防止を推進します」としている。26 ページの目標5の一番上の項目、「関係機関との連携強化によるいじめ、ひきこもり等の未然防止の推進」としている。資料2 の意見に対する回答と26 ページの書き方と、30 ページの民間支援の検討と、整理されていなかった。中野委員がおっしゃたように分かりやすく市民の方にも、切っているわけではないという書き方に修正して、資料2 も進めていきたい。
- 若木委員 : 30 ページについて、運動をする若者の支援が欠落していると思う。子ども会や町内会は良いが、スポーツレクリエーション関係団体との協力もあるといい。運動する若者は増えてきている。私どもがやっている事業に参加した子どもが世界的な大会に出場できるようになったということもある。運動して体を動かすという視点について検討頂けるといい。
- 加藤会長 : 中学生でも世界的にチャンピオンになる子もいる。「スポーツレクリエーション関係団体」も入れても良いのでは。31 ページの図はいかがか。
- 中野委員 : 民間企業でプロジェクトチームを立ち上げると、所管課が各課にまたがって進行管理とするというのが一般的であり、進行管理をどうするかは大事なこと。関連各課の実施事業がこの目標にあっているか評価して、進行管理して、評価して、改善につなげていくことになる。この図に「進行管理・評価」と書いてあり、その部分に「アンケート調査等の実施」とあるが、ピントずれていると思う。進行管理はプランの中心となる青少年課が責任をもってやるべきこと。各課の事業がどこまで進行しているか確認して、評価するというのをここに書くべき。アンケート調査等云々は、進行管理の内容としては一番目ではない。アンケートが進行管理なのか、その結果評価するのが進行管理ではないか。最後の部分疑問に案じる。
- 加藤会長 : アンケート調査等の実施部分に、進行管理評価と書かれているため、進行管理評価するところを何か置かなければいけない。ここに青少年課がくるのか、さらに大きい部門がくるのかももう少し検討してほしい。青少年問題協議会が進行管理ところまではいかないと思う。真ん中あたりに進行管理をする部門を入れて、そこから青少年問題協議会に矢印が向かう、どちらからどちらに命令するのではなく、真ん中につないでいく。全方向に青少年課が進行管理するのも良いかと思う。そういう図にすると全体像が見えてくる。
もう一度、全体を通して何か意見があれば。

- 齋藤委員 : 30 ページの部分が丁寧にわかりやすく記載されているが、子ども若者育成プラン重点事業のところ、重点事業の項目にまた「重点事業1」、その下に「重点事業2」、とあるが「重点事業」という言葉はいらぬのでは。1と2だけで伝わるのでは。
- 加藤会長 : 一番上に重点事業と記載があるので、「1. 放課後かまくらっ子推進事業」や、「2. 育成事業」のようにするといい。
- 石井委員 : 参加が遅れたため、聞き漏らしていたら申し訳ないが、資料2の「2章 青少年を取り巻く状況」で、アンケートの取り扱いに対して、「要検討」とあるが、今後検討していくという理解で良いのか。
- 芳賀補佐 : 作成している段階ではまだ確定していない状態。冊子の後ろにアンケートを配置すると、アンケートで聞いていることに対する施策等を記載しているため、離してしまうとその答えに対して後ろのページを見ることになり、見にくくなるのではないかと、内部の意見もあったため、今のところ、前回と同じような表記でアンケートを配置し、アンケートに基づいて結果や分析内容を記載している。
- 石井委員 : 一つ懸念があるのは、青少年を取り巻く状況という、大きな第2章の表題を見た時、もう少し現実的な社会情勢、社会問題と並べられるのかと思った。こういったアンケート調査をした結果、このようにして施策に活かしていくという流れに思えない。後半の第3章、4章は充実していて良いが、2章だけ膨大になっている。恵まれた状況で落ち着いて居場所がある対象者のアンケートになっていると思う。表題とアンケートが合わないと思う。
- 加藤会長 : 新型コロナもあり、アンケートが取りにくい状況だったために十分にできなかった。もう少し状況が整ってきたら学校、高等学校、大学生、勤労青年、色々なところにアンケートをもう一度取る等、出来ると思う。今回は、出来る範囲内で実施したという感じがある。パブリックコメントでも出ている。
- 石井委員 : 事情がとてよくわかるだけに、惜しい。
- 長谷川委員 : 重点事業の内容が、25 ページ、26 ページの目標5つとリンクしていくはず。目標3「鎌倉の自然歴史文化とかかわりながら、鎌倉を愛する心を育てよう」とあるが、そこをリンクしていくものが一つぐらいあると良いと思った。私も鎌倉の自然が大好きで、先ほど海という話もあったが、そこで子どもが育っていくこと、活用の仕方は多岐にわたる。目標3は幅広く「文化」も入っているが、広がりのあるものになると思う。
- 加藤会長 : 生きていく上で自然がいかに大事か、歴史、鎌倉の文化と子ども、青年がどう関わっていくか、そういう文言が一つ入るといい。
- 芳賀補佐 : 今回の目標には、まだ事業を載せていないが、前回の目標の中では、鎌倉の歴史や自然を活かしたスポーツの活動や、緑のレンジャーの育成等ある。その部分について関連各課に照会をかけており、自然・歴史等多岐にわたる講座や、イベント等出てくるかと思う。
- 加藤委員長 : 具体的なこれからの施策の中で、今後、盛り込まれていく。それでは、青少年問題協議会としては、本日の意見等を反映した上で、子ども・若者育成プランの改正を行うということによろしいか。
- 芳賀補佐 : 本日はいただいた意見を反映した内容で改正案としてまとめ、理事者等に報告したいと思う。